

## 平成 30 年度 文化創造都市高岡推進懇話会 議事録(要旨)

日 時：平成 31 年 2 月 28 日（木） 10：30～12：00

会 場：高岡市役所庁議室

出席者：【座 長】武山良三

【委 員】川島鋼、駒澤義則、林口砂里

【アドバイザー】佐々木雅幸

【事務局】福田、大野、吉本、寺口

### 1 開 会

- ・市長政策部長あいさつ

### 2 座長の選出

### 3 内 容

#### (1) 報告事項

- ・平成 30 年度 文化創造関連事業の実施状況
- ・平成 31 年度 文化創造関連事業計画

事務局： — 資料説明 —

#### (2) 協議

- ・文化創造都市高岡の実現に向けて

委員： 事業量が多いのではないか。

事務局： 平成 30 年度は日本遺産サミットという全国規模の事業がありボリュームがあつたが、クラフト市場街のように、市民が中心になり実行委員会の皆さんが主体的に動いている文化事業も多い。

委員： 昨日、市役所職員を対象に「移住定住促進」と「高岡の PR」という 2 つをテーマに、シティプロモーションのワークショップを実施した。提案内容に面白いものが多かったので、参考にしてほしい。市の中で縦割りにしてはいけない。  
また、伝統工芸は売れなくてはならない。インバウンドでも、体験プログラムは受けるが、物は売れなくなっているという話を聞いている。

委員： ヤフー検索のデータを分析し、県西部で、観光に関してどんなキーワードが出て

くるのか調べている。観光では県西部の認知度は非常に低い。白川郷を 100 とすると五箇山で 10、高岡大仏や御車山は数字に出ないくらい低い。しかし一方で、五箇山よりも検索が多かったのが「能作」である。月に 1 万人以上の観光客が訪れている。高岡はものづくりと結びついており、ものづくりが観光資源になっている。

「伝統工芸は売れなくては」という委員のご指摘については、まさにそのとおりだ。漆器組合の方から、ワークショップをしに来られる方は増えているが、売り上げに直結はしていないとお聞きしている。

一方で、成功事例も出てきている。能作では、月 1 万人以上が訪れる産業観光で採算がとれている。

先ほど、事務局報告にもあった「呉曉波プロジェクト」で、中国のメーカーや職人の方 160 人が高岡を訪れ、1 日半で 600 万円くらいのもものが売れた。中国の製造業もデザイン性の高いもの、質の高いものにシフトし、高品質のものをブランディングして世界に売っていくという戦略を持っている。彼らは、高岡では伝統的なものが今のスタイルに合わせてきちんと変化していること、そして手わざが残っていることについて、とてもうらやましがっている。

彼らのつながりで、後日、高岡を訪れた方が 100 万円の香炉をポンと買われた。日本のマーケットが縮小していく中で、ものづくりに理解のあるこういった中国の新中間層やヨーロッパをターゲットにしていくべきだ。

もう 1 点、2017 年に始めた「工芸ハッカソン」について補足する。伝統的な工芸と、先端テクノロジーの分野のエンジニアが共同で工芸の未来に対する提案をする取り組みである。プロダクトの提案、アート作品、リサーチやソフトウェアの企業もあった。1 年で終わらずに、各チームが自発的にプロジェクトを継続していかれた。文化庁に申請したところ採択され、12 月にこれまでの成果発表を東京で行うなど、つながりが継続している。

アドバイザー：中国では「昇品昇級」運動を政府が進めている。大量生産で安物を使うのではなく、良いものを作り大切に使うという考え方である。中国の人たちが日本の手仕事に興味を持っている。

ソウルでも、クラフトデザインフェアを開催しており、そこでスペインのメーカーロエベがクラフトプライズを作ったことが話題となった。イギリスもアーツカウンシルに続き、クラフトカウンシルを作った。コレクトという新しい展示会も出

てきている。従来ヨーロッパでは、クラフトはアートの下とみられていたが、クラフト的な手わざが見直されてきていると感じている。

金沢はクラフト&フォークアートでユネスコの創造都市になり、今年で10年目になる。今秋、クラフト&フォークアート部門で認定された世界の37都市が金沢に集まる。2020年の東京国立近代美術館工芸館の移転にむけて盛り上げる動き。京都は日本の工芸首都とうたっており、奈良は世界工芸文化首都と宣言した。こういう組立、ストーリーも大事なのではないか。

座長： 明治時代に西洋から美術が日本に入ってきたが、西洋の文脈では、絵画も物もボーダーレスに作る日本の工芸が理解できなかったのではないか。ようやく世界がそのことに気づき、いい風向きになっていると感じる。

委員： 突拍子もない話だが、「高岡で伝統工芸品を買うと消費税がつかない」という程のことができないか。香港だと現代アートに税金がかからない。以前、阪急百貨店で「朝日現代クラフト展」を開催し、よく売れていた。海外では中国の富裕層が現代アートを大量に買っている。

座長： クラフト展も、ときどき東京の松屋などに出ているが、数字的には芳しくない。

委員： 30年前、高岡のクラフト展の最初のころはよく売れてやりがいがあった。当初は「売れるクラフト」を目指していたが、最近はアートのほうへ移行しているようだ。当時の活動があったから、今、能作さんや小泉さんが花開いているのだが。

座長： デザイン系やクリエイティブ系が強くなり、生活者目線の意見が通りにくくなっている感じがしている。

委員： 「クラフト」というものが、広く浸透してきた。松本のクラフトフェアが顕著な例だが、コンペに出さなくてもフェアが行えるため、生活物についてはコンペに出す意味が失われている。一方でコンペに出してステータスを得たい人はアート系の方が多く、高岡クラフトコンペはそこに合わせてきたのではないだろうか。今は、両者が混ざって中途半端になっている。どちらかに振り切り、原点に戻るなり、考え直す時期ではないか。

委員： 先日、発表された「アニメの聖地」には高岡が入っていない。こうした企画に取り上げられるよう、したたかに取り組むべきだ。  
本市の財政状況を考えると新しい箱ものを作るのはむずかしいだろうが、あるものをリフォームするなどして、仕掛けをつくるべきだ。

アドバイザー： 世界の流れとシンクロできるようにアンテナを高くしておくべき。

アートマーケットは、金沢でもホテル型で、若い世代がアートマーケットをやり始めているので参考にしてはどうか。

京都の二条城で、3年前の東アジア文化首都の際に現代アートを展示するという試みをして成功し、それ以降、文化財の使い方のハードルが下がった。高岡も立派な文化財がたくさんあるので、それをうまく活用されるとよい。

座長：　まずは情報発信が基本。今日の会議で共有されたような詳しい情報を発信すべき。できれば中国語、英語でも。

次に、アクセスの問題を改善する必要がある。金沢市は周遊バス、コミュニティバスなど、さまざまなアクセス手段で街中を移動できる。高岡も、土日だけでもよいので、旅行者が安心して利用できるよう、1時間に3本くらいの周遊シャトルバスがあるとよい。

「能作」が工場見学で採算が取れているのはいいモデルだ。第2、第3の工場見学が定着していけばと思う。

### 3 閉会